

大項目	中項目	小項目	28年度		自己評価 現況	中項目 の評価	学校関係者評価		今後の改善に向けて
			小項目 の平均	中項目 の評価			意見・提言等		
協学的な学び	学級・学年づくり	学級目標を設け、支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを実践しているか	2.5	2.3	ありがとうなどの優しい言葉(ふわふわ言葉)が増えたり減ってきた。一方、乱暴な言葉遣い(ちくちく言葉)が減ってきたはいるものの完全には減っていない。そのため、ふわふわ言葉を使っている子を教師が価値付けながら認め、全体に広がるような指導を学活や道徳、日常生活の中でおこなっている。	2.9	・高学年の落ち着いたことが指導力と比例している。学級・学年経営がチーム石山として連携されているからだと思う。・聞く態度、学ぶ姿勢等子ども姿からメリハリが感じられた。上手に英語を話し、発音もよく感動した。学級経営の掲示がきめ細やか。自主的な授業への参加やグループ活動など、やる気を育む工夫がされている。	クラスマネジメントシートの活用により居心地の良い集団づくり・学級づくりに取り組む。学び合い活動が活発になるように工夫し、自分の考えを表現でき、支持的な学習集団づくりを大切にしたい。	
		基本的な生活習慣と学習のきまりの定着を図ることができたか	2.2						
		心の居場所づくりができていくか	2.1						
	基礎・基本の習得	学習習慣や基礎・基本的な学習内容を確実に身に付けさせているか	コミュニケーション能力の育成に努めているか	2.2	2.2	授業で、自分の意見と比べながら聞いたり、発表をつないでいったり指導を積み重ねてきて、黙って聞くだけでなく反応しながら聞こうとする児童が増えている。ただ、個人差は大きい。授業の中での言語活動を充実させるとともに、生活指導、学級・学年指導を通じて、さらに反応しながら聞く態度の育成を進めたい。	3.0	・一年間、児童の暴言がないし、2〜3年でとても優しい表情になった。一年ごとの成長の姿を見て、良く取り組んでいる。教師の指導体制が整っている成果である。大変落ち着いた状況を見てすばらしいと思いき、それが中学校につながっている。子どもたちは言葉に気をつけるだけで態度や表情にも変化が出てきているように思う。	毎時間のめあてを明確にし、授業の流れを大切にしたい。板書やノート指導を工夫して、より分かる授業づくりをめざす。国・算・理の学び確認テストを活用し、学力の定着・向上をめざす。
			家庭学習を習慣化させることで、確かな学力の定着と向上を図れているか	2.0					
			生命を尊重する心や人権尊重などの道徳実践力を育てる活動の実施に努めているか	2.2					
道徳教育の充実	資料の整備、充実と活用	道徳教育推進教員を中心として、道徳の授業研究や資料の開発・交流を行っているか	1.8	2.0	道徳の高まりを目指したい。また、道徳の価値を自分事として理解し、思い合うことを具体的に考える場を設けた授業案を作成・検討していきたい。	2.3	・生命の学習、体験学習など積極的にされている。読書は母親の活字離れの影響もあり、難しい。・4年生の地元の勉強の教材にちゃんと写真も載っていて驚いた。子どもたちに「本を読みましよう」だけでは難しいだろう。インターネットやスマホの情報過多の現状は押さえながら、大人たちが本を読む姿勢や有効性を伝えたい。	道徳教育を要として、学校教育のあらゆる場面で心の教育を推進していく。子どもたちの心に響く道徳の時間を中心とした研修を充実していく。	
		児童の感性や言葉の力を育む読書の推進が図れたか	1.9						
		地域資源の教材化や人材活用・外部講師の招聘などによる体験活動の充実が図られているか	2.0						
	体験活動(感動体験)	活動前・中・後の指導の充実を努めたか	豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力の基盤、成長の糧としての役割が果たしているか	2.2	2.1	・地域の人材活用という面では、一定の成果が上がっているが、石山寺や滋賀大など石山学区独自の地域資源の教材化が不十分である。	2.8	・外部の協力、バリアフリー等、福祉体験的な取り組みもすばらしい。地域の方とのつながりが「やわらかい心」につながっている。この年齢で様々な体験をさせることが大事。・地域の大切な歴史を知ってもらうためにも石山寺を教材として使っていってほしい。	図書室の積極的な活用により読書活動を充実する。担任に個人別貸出利用状況を毎月配布していく。図書環境ボランティアを組織し、編成していく。家庭や地域と協力して読書の機会を保障していく
			活動前・中・後の指導の充実を努めたか	2.0					
			活動後・中・後の指導の充実を努めたか	2.2					
体力づくり	体力づくりの取り組みと工夫	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めているか	2.3	2.4	滋賀大と連携し、体力向上に努めてきた。体育の宿題にも取り組み、いつでも、どこでも、楽しく続けられる運動遊びを保護者にも知らせることができた。チャレンジランキングへの参加に熱心に取り組む、運動の機会が増えている。教師の意識改革もできた。	3.0	・体力作りが一番大切な部分。取り組みはすばらしい。けがもしくくなる。体の基礎は小さいうちに、歩かない子どもが増えているので日頃からの努力が必要。・スクールインベーションに積極的に取り組んでいる成果が現れている。遊びから学ぶことができ、子どもたちの元気な姿勢が生まれている。体力作りや食育は暮らしとつながりが深く、継続した取り組み、意識化が大切。宿題としての体力作りは成果が表れてよい。先生と生徒が一体になって大変良かった。昼休みに活発に動いていて良い。・幼小中の連携、職員一丸となつての取り組みはすばらしい。教師が意識改革をすることは大事。子どもが生き生きと体を動かしている姿が見れた。	体を動かす心地よさを感じられ、運動することが好きな児童を育てるための授業を実施する。月1回〇〇大会を実施し、児童に取り組みの意欲を持たせる。	
		進んで自分の体を鍛えようと運動する環境づくりができたか	2.6						
		運動の楽しさを味わい、進んで親む児童が増えたか	2.4						
	食育・保健・安全指導	食に対する正しい知識や関心の育成が図られているか	健康な生活の習慣化を行うことができたか	1.9	2.1	・食育動画、栄養教諭の指導、学級指導を通して食に対する知識を高められた。・保護者の安全への意識が高く、要望も高いものがある。安全指導や管理のさらなる向上が必要である。	2.4	・食育動画、栄養教諭の指導、学級指導を通して食に対する知識を高められた。・保護者の安全への意識が高く、要望も高いものがある。安全指導や管理のさらなる向上が必要である。	体力・食育・生活習慣の3領域の関連性を持たせた指導を、幼・小・中連携で、情報交換を密にして、発達段階に適切な指導を進めていく。
			健康な生活の習慣化を行うことができたか	1.9					
			平素から学校全体で安全管理、安全教育、健康指導の充実、徹底が図られているか	2.2					
(指導改善・計画的)	校内研究	語彙や表現を獲得させ、適切に話し合う能力を育成することができたか	2.3	2.2	主体的かつ対話的な学びを重視した授業作りをしてきて、他者の学習や活動に積極的に関わっていく姿が多く見られるようになった。子どもたちの考える時間を十分に確保し、「話す」から「書く」活動への転用、応用を意識していきたい。	3.0	・英語、パソコン等の勉強、非常に学力アップになっている。・学校での協力体制が子どもの意欲につながっている。・情報を密にしていることが成果につながっている。・異年齢の交流から子どもたちの中に思いやりが生まれている。・教科担任はいろいろな目で見られていい。・学区の子どもたちの傾向を考えると「チーム石山」の考え方はすばらしい。・個の対応でなく、学校として対応することの大切さを感じる。・楽しい授業であることが一番学習意欲につながる。	「人との関わりの中で学びを深める子どもの育成」をテーマに、研究教科は国語で、引き続き「話すこと・聞くこと／書くこと」について、研究を深めたい。	
		ICT活用による校務の効率化と教育活動の質の改善に努めたか(積極的に思いや考えを「発表する力」や思いや考えを受け止めるための「聞く・聴く力」を育成できたか)	2.1						
		指導力向上のために校内研究や校外での研修会への参加を積極的に行っているか	2.2						
	学年担任制	教員との人間関係の広がりや学習の深まりによる子どもたちの成長が見られたか	職員とのチーム意識が高まり、多面的な児童理解に基づく組織的・協力的な指導が充実できたか	2.6	2.4	わかる授業の確立と基礎基本の徹底。専門的な指導ができた。担任外の教師が授業することのより、多面的な見方ができたり、問題を共有できたり指導に役立った。	2.9	・高学年では、引き続き社会・理科・書写等の教科指導を担任外の職員が関わり、情報交換、連携に綿密に取り組んでいく。	
			教員の専門性や持ち味を生かし、質の高い指導ができたか	2.4					
			教員間の定期的な連絡会や合同研修会を実施しているか	2.5					
支えと連携	家庭・地域との連携	保護者の子育てに対する支援や悩みを聞く教育相談を実施しているか	2.3	2.3	総合的な学習、生活科の授業など学習支援の協力を得たり、地域学習など地域の人々とふれあったりすることができた。学区地域に積極的に出かけて、その魅力をより深く知ることができた。また地域の人々の温かさを実感した。防犯パトロール等、地域の方の積極的な支援も継続している。	2.8	・以前から「Iism」の歴史が繋がっている。・保幼小が連携して交流できている。・子どもたちが自然体で接してくれることがありがたい。朝のあいさつが少ない。他園、他校との交流はとても良い。・若い先生たちに「保幼小中連携にどのように取り組んできたか」をしっかりと伝えていく。	今後もホームページの内容をさらに充実するとともに、学校だより・学年だより・保健だよりを定期的に発行していく。また、地域や家庭のニーズに応じた情報を発信し、開かれた学校づくりを推進していく	
		保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会を実施しているか	2.3						
		保護者(PTA)・地域と連携を取りながら、安心・安全な学校作りを目指しているか	2.3						
	保幼小中の連携	子どもの校種間交流や教員の出前授業等実施できているか	校種間の定期的な連絡会や合同研修会を実施しているか	2.5	2.4	保幼小への出前授業で、小学校への期待を持たせられた。・中学校の出前授業や5・5交流や石中への補習学習や石山フェスタと職場体験学習発表会、入学説明会への6年生の参加などスムーズに連携ができた。	3.0	・生徒指導・教育相談での校種間連携だけでなく、体育、英語などの教科での連携も考えていく。・石人教の部会との連携も含めて、実りのある連携を引き続き推進していく。	
			校種間の授業公開や一貫的なカリキュラム研究・体力向上の取り組みなどを積極的に行っているか	2.2					
			校種間の授業公開や一貫的なカリキュラム研究・体力向上の取り組みなどを積極的に行っているか	2.2					
充組織的体制の	生徒指導体制の充実	石山小のあいこばを共通理解、共通実践できているか	2.5	2.6	担任と連携しながら、チームとして個々の課題に迅速且ついねいに組織だった取り組みができていくが、子どもたちの実態からは、規範意識の未確立、道徳の実践力・判断力、生活習慣が未定着な部分が見られる。あわせて「豊かな心の育成」の充実が必要である。	3.0	・アンケートで気になった項目は、高学年になるほど悩みを話していくということ。多忙な教職員がどこまで寄り添い聴くことができるのか、難しい課題だ。教師の「チーム石山」という体制が子どもたちに良い効果。いろいろな先生に守られている安心感がある。・先生方の連携がうまくいっている。ベテランと若手の融合が必要であるし、お互いが努力している。就学相談、少しずつ進んでいる。さらに保護者との連携をお願いしたい。専任の先生がいて積極的に取り組んでいる。・園より規模が大きい協力体制が整えられている。園の生活、行事、活動の機会に見に来てもらうことも安心感がある。チームと関わることは関わる側も関わる側にもクッションになる。	・今年の体制を維持しつつ、落ち着いた雰囲気のある学校づくりに励む。・引き続き、支え合い切磋琢磨し合う職場づくりを推進する。	
		生徒指導、いじめ対策の組織的な対応と継続的な指導ができていくか	2.7						
		SC関係機関と連携した教育相談の充実ができていくか	2.5						
	特別支援教育の充実	保護者と連携し、個別指導計画の作成が適切になされているか	組織的・計画的な特別支援教育体制が確立されているか	2.3	2.2	担任や保護者からの相談には、迅速な対応できた。求めている情報(関係機関や支援方法など)の提供にも応えられるようになった。支援を必要とする子についての連携が少しずつ組織的に組み立てられ、関係者で共通理解しようという流れができつつある。	2.9	今後も就学支援委員会や週一回の生徒指導連絡会の中で、子どもの様子について情報交換を密にし、全職員で子どもの指導・支援をしていきたい。また、日常的に子どもたちの様子について情報交換を密にしていきたい	
			組織的・計画的な特別支援教育体制が確立されているか	2.3					
			関係機関と連携した相談体制の充実が図られているか	2.3					

※評価は、「3」・よくあてはまる。「2」・あてはまる。「1」・あまりあてはまらない。「0」あてはまらない